

平成20年度厚生労働省老人保健健康増進等事業
「訪問看護事業所の機能集約及び
基盤強化促進に関する調査研究事業」



平成21年3月28日

福岡県看護協会訪問看護
ステーション「くるめ」

荒巻初子

3. モデル事業の各パターン

2) ネットワーク化

■現在の課題

小規模事業所のため、訪問看護事業所の運営にかかる様々な諸業務(管理業務/事務業務/電話対応/物品調達/人材確保・研修等)の職員負担が大きく、経営・運営の効率性が低い。

■モデル事業の内容

各訪問看護事業所で実施している共通的な業務を切り出し、地域の訪問看護事業所同士が効率化のために一元化し、協働して実施する。

協働実施のプロセス・方法・内容や、協働実施前後の収支状況・利用者数・職員負担等の変化を明らかにする。

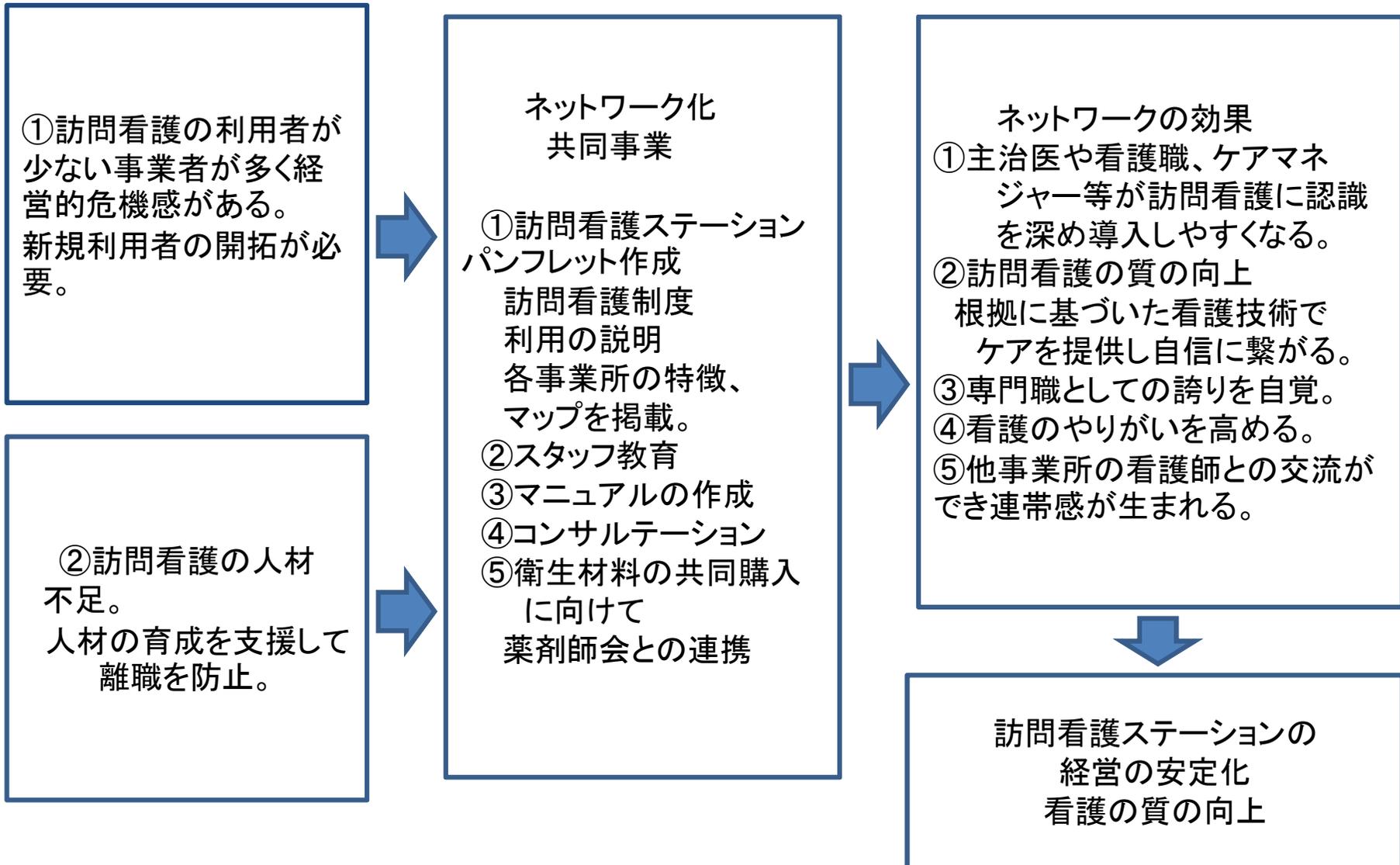
訪問看護事業所の機能集約及び基盤強化促進に関する事業

福岡県・久留米地域でのモデル事業としての取り組み

久留米市介護福祉サービス事業者協議会
訪問看護部会の協力を得て

- 1) パンフレット作成
- 2) 研修 「訪問看護技術としての清潔援助」
- 3) 清拭のマニュアル作成
- 4) コンサルテーション
- 5) 衛生材料など、一括購入・管理、リストの作成

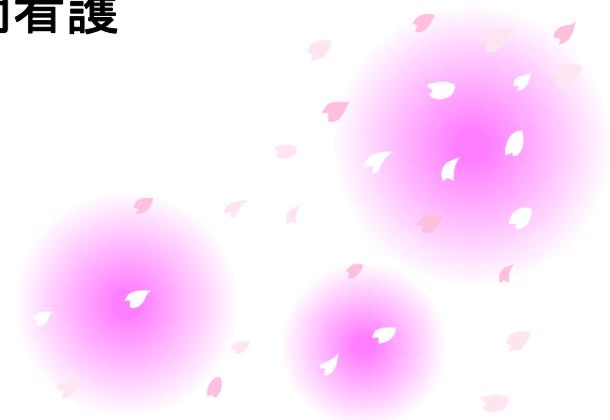
ネットワーク化モデル事業の実際



訪問看護のPR・パンフレット作成

- 訪問看護のPRのためパンフレットを作成し医師会、病院、診療所、行政、包括支援センター、介護支援専門員等に配布。
- 作成にあたり各事業所の特徴を出し、ステーションを選ぶ時の参考にしよう。

- パンフレットの内容は、
活用する職種によって、必要とされる情報が違うため、
 - ① 訪問看護ステーションのサービス内容
 - ② 訪問看護を継続するために
 - ③ 医療保険制度と介護保険制度における訪問看護
 - ④ Q&A
 - ⑤ 疾病一覧
 - ⑥ 訪問看護の利用は医療保険？介護保険？
 - ⑦ 事業所一覧
 - ⑧ 事業所マップ
 - ⑨ 事業所名簿
 - ⑩ 別紙 料金表



訪問看護ステーションの紹介

～ 久留米市内の事業所 ～



1000部作成・配布先
 病院・診療所・医師会
 薬剤師会・保健所・市役所・
 包括支援センター
 介護支援専門員
 介護サービス事業所
 訪問看護ステーション

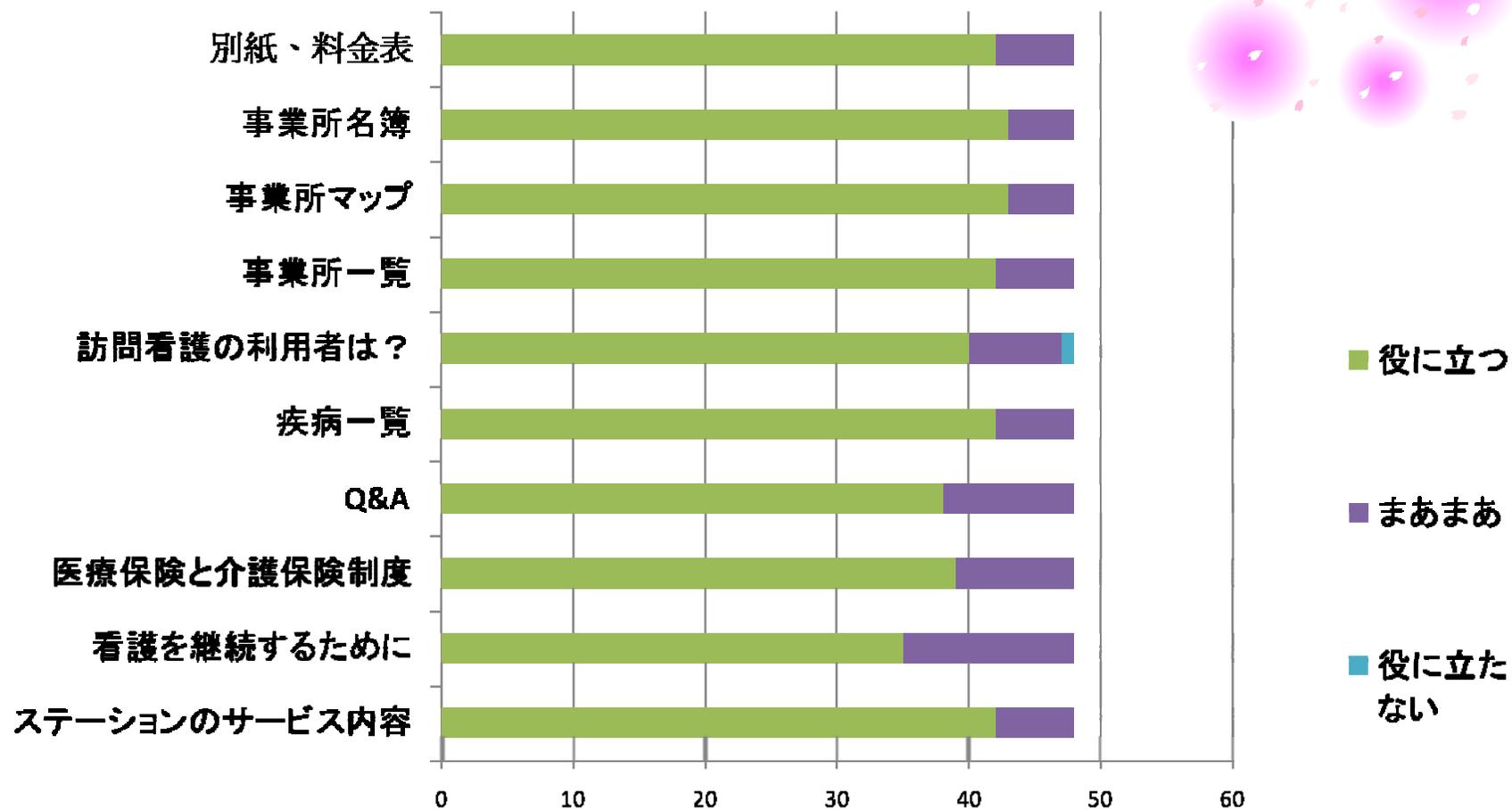
目次

- P1. 訪問看護ステーションのサ
- P2. 看護を継続するために
- P3. 医療保険制度と介護保険制度における訪
- P4. Q&Aコーナー
- P5. 疾病一覧
- P6. 訪問看護の利用は医療保険と介護保険

事業所	医療処置	対象者等	職員	事業所の特徴
特別管理加算	在宅酸素療法 人工呼吸器 気管カニューレ 在宅静脈栄養 在宅自己腹膜透析 ストーマ(ウロ・コロ)	在宅での看取り 末期がん 難病 小児 精神	看護師数 PT・OT・ST	各事業所の特徴を一言で表現すると
○	○	○	3	看護師とPTによるリハビリ
○	○	○	13	新生児・小児への積極的な訪問看護
○	○	○	5	心不全の利用者のケア
○	○	○	13	終末期ケア・自宅での看取り数も多い
○	○	○	5	精神疾患の看護
○	○	○	5	看護師によるリハビリ
○	○	○	5	看護師によるリハビリ
○	○	○	3	脳血管疾患後遺症の方のケア
○	○	○	6	心あるケアを行います
○	○	○	2	リハビリテーション全般に精通

事業所の特徴
 体制、得意分野
 営業時間、職員等

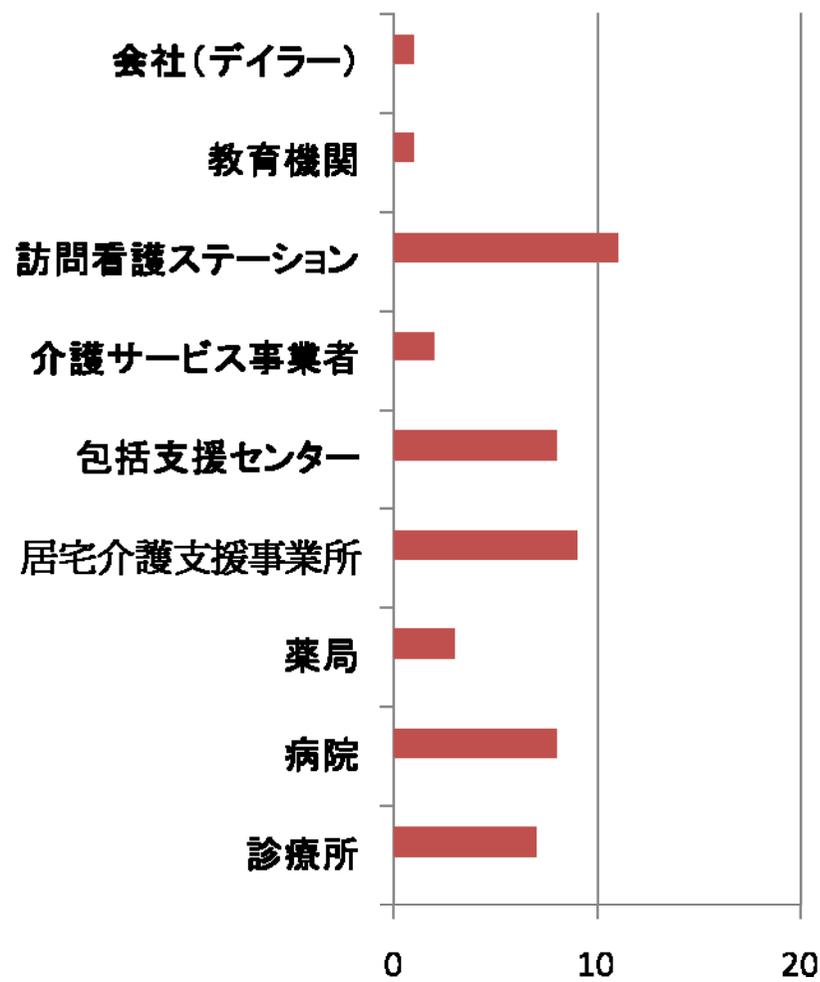
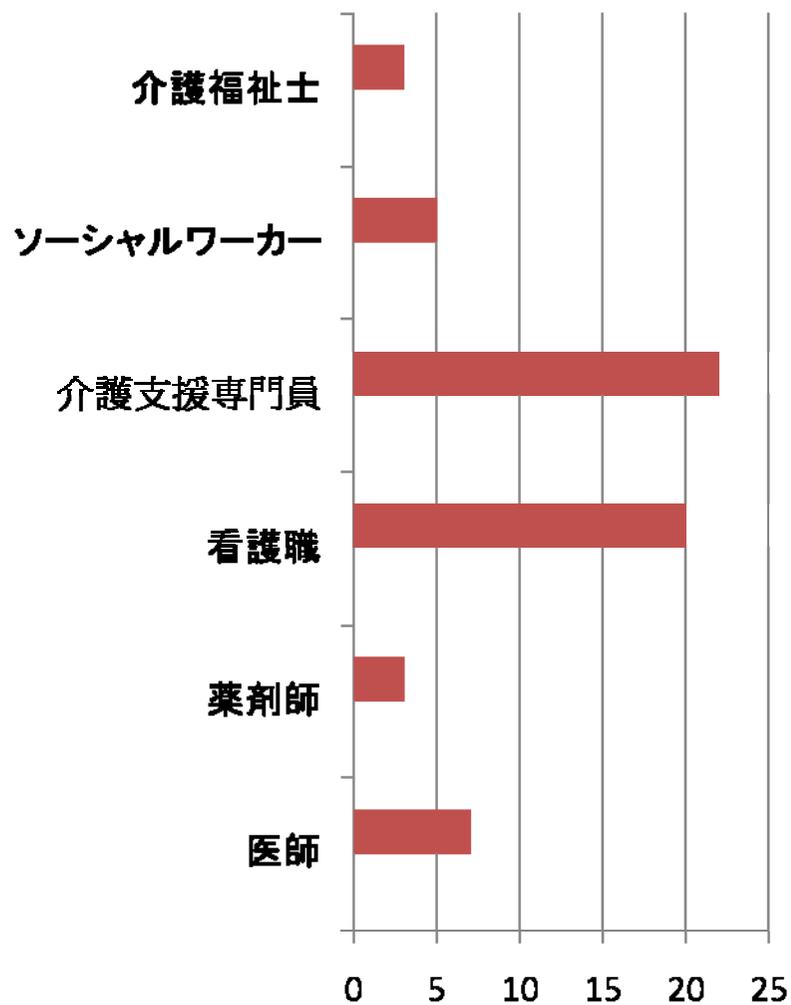
パンフレットアンケートの結果



アンケート回答者

職種(重複)

所属



9. マニュアル類を共同で作成

- 研修時の資料をもとに清拭のマニュアルを作成
- さらに研修講師に指導を受け修正
- 在宅ケアに携わる全ての訪問看護師が、プロの技を提供できるように、科学的根拠に基づくケア技術をマニュアルにした。

ケア技術や管理・運営を相互に相談

- コンサルテーション（得意とする専門分野を相互に）

内容 ・人工呼吸器やカフマシーン等の機器管理

・麻薬を使った疼痛管理

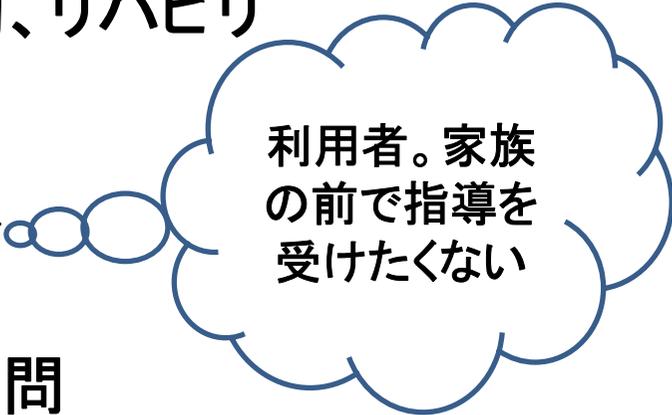
・難病で身体の移動等への介助、リハビリ

・自動注入ポンプの使い方

方法 受け手側の利用者宅同行訪問、

事務所でのレクチャー

指導者の利用者宅へ同行訪問



利用者。家族
の前で指導を
受けたくない

3月9日(月)事例検討会

褥瘡ケアについて、3ステーションより事例提供

他の内容は次年度へ引き継ぎ研修計画

4.衛生材料等の訪問看護用物品を 共同で購入

- 1、各ステーションにアンケート用紙配布
どのような物品が必要か

(社)三井・久留米薬剤師会に協力依頼

- * 各ステーションからのアンケートにより
必要とされる衛生材料等をリストアップ
- * 医師会と協議
- * 次年度は薬剤師会での継続事業

11.スタッフ教育を合同で実施

訪問看護師研修会のご案内

平成20年度訪問看護基盤強化促進モデル事業として下記研修会を開催いたします。

講師：久留米大学医学部看護学科 学科長 教授 野村志保子先生

- 1 日時 平成21年 1 月 10 日 (土) 12:00~16:00
- 2 場所 久留米大学医学部看護学課 実習室
- 3 対象 久留米市内訪問看護ステーション所属の看護師約50名
- 4 内容 訪問看護技術としての清潔援助 講義および演習
- 5 目的 利用者の満足度を高める基礎看護技術を学ぶ。
目標 在宅での看護は居住環境が利用者一人ひとり違い、また、限られた訪問時間の中でしかも看護師ひとりで行うことが多いという特殊性がある。

専門職として利用者の満足が得られる看護技術を習得することを目標とする



訪問看護技術としての清潔援助

「利用者に心地よい生活援助技術とは」～清潔に関わる援助技術を再考～



臨地で働く看護師と教育に携わる看護師と一緒に学べる、とても楽しい研修会でした

研修アンケートの結果

1 研修参加動機(複数回答)

目的に惹かれて 16	講師に惹かれて 13
上司・同僚に勧められて 14	自分のケアを見直す 26
研修内容に惹かれて 13	その他 0

2 研修会への期待(複数回答)

知識・技術を得る 29	具体的な方法を深める 22	その他 2
-------------	---------------	-------

3 目的の達成

達成できた 24	だいたい達成できた 12
----------	--------------

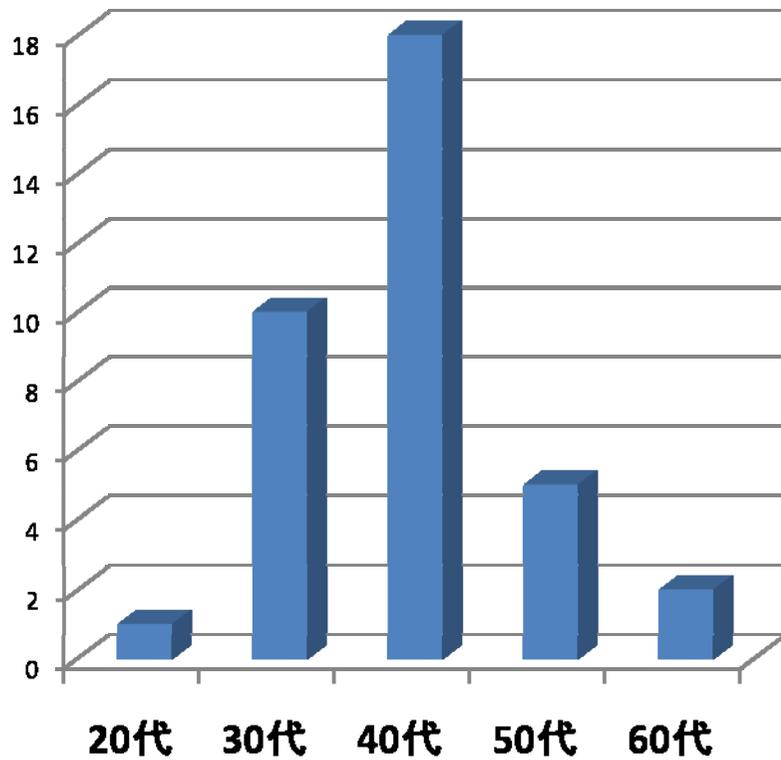
4 今後の研修の希望

希望する 32	希望しない 0	その他(未記入) 4
① 年1回 → 9		
② 6か月に1回 → 21		
③ 3か月に1回 → 2		

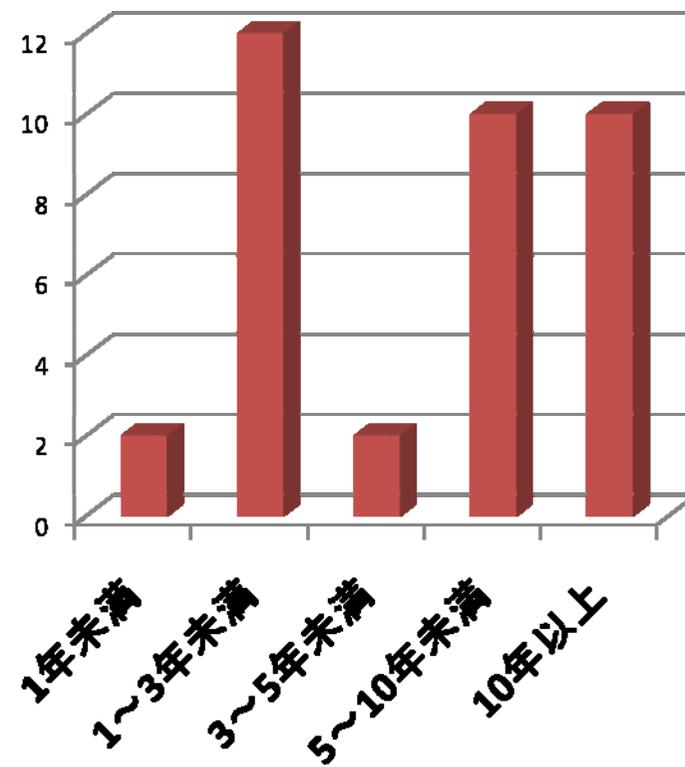
受講者の背景

(N=36)

受講者の年代



訪問看護経験年数



意見・感想の一部（年代と訪問看護経験年数）

- ・ 看護技術の奥深さを改めて見直す機会ができました。野村先生のむだのない動き、美しさを忘れないように ケアを継続していきたいと感じました。(40代 5~10年未満)
- ・ 日常の看護技術の原理原則から学習する機会になりました。(40代 10年以上)
- ・ 他の施設のスタッフと交流もでき、実りの多い1日でした。(30代 1~3年未満)
- ・ 基本的なことを学ぶことで今後に生かせると思います。理論に基づいた技術はとても気持ちよく、身をもって 体験し、利用者様に還元したいと思います。(40代 3~5年未満)
- ・ 前回参加させて頂きましたが、やっぱり繰り返し原点に戻ることの大切さや、看護はすばらしいと改めて感動しています。(50代 10年以上)
- ・ すばらしい実習環境と器具(物品)、看護の姿勢について改めて学ぶことができました。ケアの再認識と今後の 業務に活かしていきます。(40代 5~10年未満)
- ・ 訪問看護師のケアの宝となるべき清潔援助や基本動作のボディメカニズムについて、改めて学習する機会が 持てとても良かったです。また看護学科の貴重な実習室、先生方の手厚い指導を受けとても貴重な体験となりました。(40代 5~10年未満)

モデル事業の成果

＜スタッフ教育、コンサルテーションの実施、マニュアル作成＞

- 訪問看護師の自信が高まり訪問看護の質向上が図られる。
- ステーション同士のネットワークができ、気軽に相談。
- マニュアル作成。
- 市内の訪問看護ステーションの訪問看護師は意欲的に研修参加。

＜パンフレット作成・配布＞

- 訪問看護のPRができた。主治医や地域連携室等の職員、ケアマネジャーからの問い合わせが増えた。
(パンフレットは好評であり、まだ入手希望者がある。残量なし。
アンケートの記載内容にも、制度やサービスの紹介に役に立つ。
事業所の特徴が参考になる。事業所を選ぶ時参考にする。等)

＜薬剤師会の協力により＞

- 市内の訪問看護ステーションへアンケート調査とヒアリングにより調剤薬局に置く、衛生材料等をリストアップ。調剤薬局、医師会の協力。
次年度は薬剤師会により、この課題を継続して取り組む。

利用者の増加や人材の確保の評価までには至っていない。